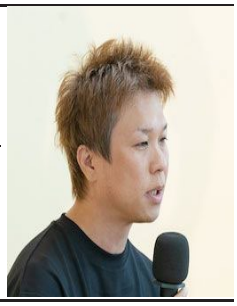
福祉健康科学部

所属・職位	福祉健康科学部福祉健康科学科　社会福祉実践コース・准教授
氏名	志賀　信夫（Shiga Nobuo）
取得学位	博士（社会学）、一橋大学、2014年6月
SDGs目標	
リサーチマップ（researchmap）※上記をクリックしてください	



研究分野	貧困理論、社会開発
研究キーワード	貧困理論、社会開発、資本主義批判
研究内容	●貧困理論に関する研究 ・貧困概念は歴史的に拡大してきました。19世紀末、貧困は「食べることができない生活状態」という非常に限定的な意味で理解されていましたが、20世紀半ばには貧困の意味内容が従来よりも豊かになりました（貧困概念の拡大）。具体的には「社会参加」概念が付加されたのです。さらに、20世紀末には「自由」概念も付加され、貧困をめぐる議論は新たな地平を獲得しつつあります。この「新たな地平」とは具体的に何なのか、ということを主に追究しています。 ●貧困根絶に関する研究 ・貧困がどのように理解されてきたのかという研究から一歩進んで、貧困を根絶するためにはどうすればいいのかという研究も行っています。この研究は、貧困が生み出されるメカニズムを明らかにする必要があります。現時点では、貧困は資本主義的生産関係から必然的に生みだされるものであると私は考えております。 ●社会開発に関する研究（沖縄の貧困と基地の集中、公害問題） ・経済開発では真の意味で人間を豊かにするものではないと私は考えております。それは、沖縄における植民地主義的経済開発による貧困と基地の集中に関する研究から得られた知見です。さらに、水俣（熊本県）、土呂久（宮崎県）、興南地域（朝鮮半島）における植民地主義的経済開発に関する研究も同時に進めながら真に豊かな生活について研究しています。
研究業績・アピールポイント	【著書】 ・志賀信夫（2025）『貧困とは何か―「健康で文化的な最低限度の生活」という難問』（ちくま新書） ・志賀信夫・加美嘉史編著（2024）『漂流するソーシャルワーカー：福祉実践の現実とジレンマ』（旬報社） ・志賀信夫（2022）『貧困理論入門　―連帯による自由の平等―』（堀之内出版） ・安里長従・志賀信夫編著（2022）『なぜ基地と貧困は沖縄に集中するのか―本土優先、沖縄劣後の構造』（堀之内出版） ・全泓奎、志賀信夫編著（2022）『東アジア都市の社会開発―貧困・分断・排除に立ち向かう包摂型都市と実践』（明石書店） ・佐々木隆治・志賀信夫編著（2019）『ベーシックインカムを問いなおす―その現実と可能性』（法律文化社） ・志賀信夫（2016）『貧困理論の再検討―相対的貧困から社会的排除へ―』（法律文化社） 【論文】 ・志賀信夫（2024）「企業主義的経済開発が生み出す貧困―「貧乏」から「貧困」へ」『地域創生学研究』7（pp. 21-33）（北九州市立大学地域創生学会） ・Nagatsugu Asato, Nobuo Shiga（2024）*Okinawa and the Link Between Socioeconomic Disparities and Colonialism in Japan,* Stanford Social Innovation Review. ・志賀信夫（2023）「社会開発の条件」『居住福祉研究』34（pp. 50-61）（日本居住福祉学会） ・志賀信夫（2022）「貧困理論と差別」『社会政策』13（3）（pp. 69-81）（社会政策学会） ・志賀信夫（2020）「階級関係から問う貧困問題」『社会福祉学』61（3）（pp. 1-13）（日本社会福祉学会）